

学校教育目標	夢と希望をもち、自らの力を発揮し、共に生きる子どもを育てる
目指す学校像	安心安全な学校、温かく一体感のある学校
重点目標	1 学びの連続性を意図した一貫性のある教育活動の実施と個別最適な学びの実現 2 一人ひとりの実態に応じた支援体制の構築 3 学校・家庭・地域・関係機関等との連携・協働 4 安心・安全な教育環境の整備 5 教職員の主体的な学びによる専門性の向上

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標							実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○校内研修において、研究部や教科部会を通して話し合ったり、授業づくりシートを各自作成したり、授業実践発表会を行ったり、組織的な研修体制ができてきている。 ○ICTの効果的な活用について課題があるが、学んでいこうとする意識の高い教職員が多い。 (課題) ○校内研修での実践を日々の授業に還元できるような内容にするために、内容を更に見直していく必要がある。 ○カリマネデザインマップの作成に向けて、教育課程検討委員会を中心に検討していく必要がある。	・個別最適な学びと協働的な学びを意識した教育活動の実践 ・12年間を見通した教育課程の編成	①児童・生徒の興味・関心等に応じた学びと、様々なものの見方や考え方に触れることができる授業を実践する。 ②児童・生徒の強みや可能性を最大限引き出し発揮させる視点を意識した授業を実践する。 ①教育課程検討委員会や校内研修により、12年間の学びの連続性を重視した教育課程を編成する。 ②カリマネデザインマップの作成に向けた協議や準備をする。	①学校評価「教え方を工夫・研究」の教職員評価のA評価が昨年度比+5%以上となったか(昨年度29.8%)。 ②全教職員が授業づくりシートを作成し、実践することができたか。 ①学校評価「小中高12年間の連携」の教職員のA評価が昨年度比5%以上となったか(昨年度14%)。 ②令和8年度に向け、12年間を見通した教育課程の編成とカリマネデザインマップの作成の方向性を示すことができたか。					
2	(現状) ○報告・連絡・相談・見届けについて、教職員間で徹底するよう共通理解が図られている。 ○児童・生徒を主役とした授業や学校行事を計画し、実施することができている。 (課題) ○安全で組織的な医療的ケアの体制づくりに向けて、協議を重ねていく必要がある。 ○ひまわり特別支援学校との連携・協力体制の構築を推進していきたい。	・児童・生徒を大切に指し導体制の構築 ・医療的ケアの安全な実施	①報告・連絡・相談・見届けを徹底し、児童・生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な声掛けや指導をする。 ②児童・生徒を主役とした授業や学校行事を実施する。 ①教員や看護師等が情報共有を密に行い、安全な医療的ケアができる体制を構築する。 ②ひまわり特別支援学校との連携・協力体制を構築する。	①ヒヤリハット事案(大きな事故にはいたらなかったが、危なかった事案)を減少することができたか(昨年度25件)。 ②学校評価「学校行事」の教職員・保護者のA評価が昨年度比+5%以上になったか(昨年度31.6%・54.3%)。 ①学校評価「医療的ケアの安全」の保護者の肯定的評価(A・B)が90%以上となったか(昨年度85.7%)。 ②ひまわり特別支援学校との連携・協力のための具体的な方向性を示すことができたか。					
3	(現状) ○学校運営協議会を年3回実施し、保護者や地域、関係機関との連携がとれている。 ○他校との交流及び共同学習は、連絡調整しながら組織的に実施できている。 (課題) ○学校運営協議会での熟議の内容を具体的な取組につなげていきたい。 ○特別支援学校のセンター的機能の向上のために、校内体制を整備する必要がある。	・学校運営協議会の開催と具体的な実践 ・特別支援学校のセンター的機能の充実	①学校運営協議会での話し合いによる、学校や地域の課題解決に向けた新たな取組を実施する。 ②学校運営協議会や本校の課題について話し合う「熟議」の内容について、学校だよりやHP等で情報発信する。 ①特別支援学校のセンター的機能の充実のための、人材育成と制度作りを充実させる。 ②他校との交流及び共同学習を積極的に実施する。	①学校運営協議会において、課題解決のための新たな取組を1つ以上実施することができたか。 ②学校運営協議会や熟議について、学校だよりやHPで情報発信することができたか。 ①センター的機能における派遣教職員人数を増員することができたか(昨年度8人)。 ②学校評価「近隣校や近隣地域との交流」の教職員・保護者のA評価が昨年度比+5%以上になったか(昨年度47.4%・57.1%)。					
4	(現状) ○毎月の安全点検、定期的な校内巡視等ができており、安心・安全な学校環境に対する教職員の意識は高い。 ○昨年度の修繕予算の執行率はほぼ100%であり、今後も予算の重点化により対応を行っていききたい。 (課題) ○児童・生徒がいる想定での、地域の方々も含めた災害想定訓練について検討が必要である。	・安心・安全な学校環境の整備 ・危機管理意識の向上	①毎月の安全点検、定期的な校内巡視を実施する。 ②予算状況の毎月の確認と、ニーズに応じた予算の重点化を行う。 ①防犯体制の見直しと不審者対応研修を実施する。 ②災害時における児童・生徒、教職員の動きと地域の方々の受け入れ体制を検討する。	①学校評価「施設・設備」の教職員・保護者のA評価が昨年度比+5%以上となったか(昨年度40.4%・51.4%)。 ②安全点検の指摘箇所の修繕率を90%以上になったか(昨年度81.8%)。 ①学校評価「災害時や非常時の対応」教職員・保護者のA評価が昨年度比+5%以上となったか(昨年度31.6%・42.9%)。 ②災害時の受け入れ体制について、協議の実施と方向性を見出すことができたか。					
5	(現状) ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、校内研修や研究発表会を実施する体制が構築できている。 ○専門性の向上を図るため、主体的に自己研鑽を積むなど、意欲の高い教職員がいる。 (課題) ○教職員の指導力向上のため、校内研修や年次研修を組織的で系統的なものにし、互いに学び合える体制づくりが必要である。 ○業務を精選し、教材研究や主体的に学ぶ時間をいかにして確保するかが課題である。	・教職員の専門性の向上 ・働きやすい職場環境の整備	①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、校内研修や研究発表会の実施により、全教職員が学ぶ機会を保障する。 ②管理職や主任等による年次研修や校内研修における指導を通して、教職員の指導力向上を図る。 ①働きやすさと働きがいが高くなる職場づくりのため、管理職による積極的な声掛けや支援を行う。 ②会議の効率的な進め方を確認し、時間内で終わらせる。	①学校評価「積極的な研修」の教職員のA評価が昨年度比+5%以上となったか(昨年度38.6%)。 ②管理職による年次研修や校内研修の参観や指導助言を90%以上実施することができたか。 ①教職員の時間外在任時間の月別平均時間が45時間以上の割合が10%以下になったか(昨年度17.5%)。 ②会議の効率的な進め方について話し合い、新たな取組を1つ以上実施できたか。					

目指す学校像	夢と希望をもち、自らの力を発揮し、共に生きる子どもを育てる
--------	-------------------------------

重点目標	1 学びの連続性を意図した一貫性のある教育活動の実施と個別最適な学びの実現 2 安心・安全な教育環境の整備 3 学校・家庭・地域・関係機関等との連携・協働 4 特別支援教育を推進する学校としての特別支援学校のセンター的機能の充実、専門性の向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和7年2月12日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ・児童生徒一人ひとりの実態に応じた個別の指導計画の作成は概ねできた。 ・各授業等において ICT 機器の活用は進んできている。 ・学部の枠を超え、授業研究、協議を行い、学びの連続性や個別最適な学びの実現に向けての授業改善に努めている。 <課題> ・指導と評価の一体化については改善が必要などところもある。 ・活動ありきの授業になっているところがまだある。 ・各教科の資質・能力を育むための授業づくりをしていく必要がある。	・学びの連続性を意図した教育課程の編成と実施 ・個別最適な学びの実現	①教育課程検討委員会を年間9回程度設定し、適切な教育課程を編成するための諸課題について検討する。 ②学部間の連携を意識した一貫性のある教育課程、学びの連続性を意図した教育課程を編成し、学部の枠を超えて授業を参観し協議できる機会をつくる。	①学校自己評価に係る教職員アンケート、保護者アンケートにおいて、それぞれ関連項目肯定的評価90%以上となったか。 ②学部を超えた授業研究を実施し、研究協議を行い、12年間の学びの連続性についての共通認識をもつことができたか。	・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(91.9%) 保護者アンケート90%以上(91.4%) ・教育課程検討委員会を年間9回実施し、適切な教育課程の編成、実施に向け検討することができた。 ・教務主任による教育課程研修、学部の枠を超えた授業研究、協議等により、12年間を見通した学びについての認識が高まった。 ・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(91.9%) 保護者アンケート90%以上(87.6%) ・授業づくりシートを活用した授業を行うことで、より実態に応じた指導・支援につなげることができている。	A	・12年間を見通した指導の充実 →指導内容を明確にした各教科の年間指導計画の作成と教材教具の整理。 →12年間を見通し、更には卒業後も見据えた計画的なキャリア教育の推進。 ・ICT機器の活用 →児童生徒の情報共有システムの確立。 ・「個別最適な学び」の実現、個別の指導計画の作成 →十分な引継ぎ、広い視野での子どもの捉え、丁寧な実態把握を行うことでの課題の明確化。 →授業づくりシートの活用による授業改善の推進。 ・ICT機器の活用 →主体的な学びやコミュニケーションツールとしての利活用。	・小・中・高の12年間の連携はさくら草特別支援学校の肝になるはずである。丁寧な引継ぎを行っていくこと、システムの整備、研修など更に充実させていく必要がある。
2	<現状> ・医療的ケアに関わる職員の情報共有の機会を定期的にもつとともに、様々な案件について、医療的ケア委員会で話題提供し、検討することができた。 ・医療的ケア委員会を年間11回実施し、それぞれの立場から指導、助言をいただくことができた。 ・ヒヤリハット事案を全体で共有することができている。 <課題> ・医療的ケアを必要とする児童生徒の増加に伴い、必要な支援も異なり、その対応を検討するケースが増えている。 ・事案の共有だけでなく、全教職員が自分事として、危機意識の向上に努める必要がある。	・医療的ケア安全実施の維持向上 ・危機管理意識の向上	①医療的ケア委員会を年11回実施し、主治医、指導医、保護者、看護師、学校、教育委員会の連携体制を充実できるようにする。 ②児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、日ごろから、教員、看護師等が情報共有をする機会をもち、医療的ケアの実施に関する課題を出し合いながら本校の医療的ケア手引きの見直しを行う。	①学校自己評価に係る教職員アンケート、保護者アンケートにおいて、それぞれ関連項目肯定的評価90%以上となったか。 ②より安全な医療的ケア実施に向け、本校の医療的ケア手引きの見直し、修正を行うことができたか。	・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(91.2%) 保護者アンケート90%以上(85.7%) ・医療的ケア委員会を年間11回実施することができ、様々な案件についてそれぞれの立場から指導、助言をいただくことができた。 ・医療的ケアに関わる職員の情報共有の機会を定期的にもち、医療的ケア手引きの見直しを行うことができた。 ・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(89.4%) ・ヒヤリハットの報告事案を全体で共有することで、事故の防止への注意喚起につながっている。 ・安全点検での対応と事故・災害想定訓練を学期1回以上実施することができた。	B	・関係者全ての共通理解、安全でスムーズな医療的ケアの開始、実施 →役割分担の明確化、関係者の十分なコミュニケーションによる密な情報連携。 →校内体制の整備。	・校内の様々な災害想定訓練に加え、避難所運営訓練においてもさくら草特別支援学校の児童生徒がいる想定での訓練も考えていく必要がある。 ・関係機関との更に密な連携も必要である。
3	<現状> ・年間3回の学校運営協議会を開催し、少しずつ連携を深めることができてきている。 ・交流および共同学習は、連絡調整を密にしながら実施することができた。 <課題> ・「本校のことを知ってもらう」「本校が地域の身近な存在」となるよう教育活動等の情報発信については更なる充実を目指す必要がある。 ・センター的機能の一つである教育相談対応については、今年度も半数程度の教員が関わることができたが、巡回相談等については8名程度である。 ・地域学校協働活動を更に進めていきたい。	・学校運営協議会の開催と教育活動の情報発信 ・共生社会の形成に向けた取組の推進	①学校運営協議会における委員を選定し、教育、福祉、医療、進路等の本校の課題を踏まえた熟議を行う。 ②学校の教育活動や児童生徒の学習の様子等の情報発信をHPやメール等を活用し適切に行うとともに、実際に関わる機会や場の設定を行う。	①学校運営協議会を年3回開催し、本校の学校運営について意見交換することができたか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケート、保護者アンケートにおいて、関連項目肯定的A評価50%以上となったか。	・年間3回の学校運営協議会を開催し、少しずつ連携を深めることができてきている。 ・学校自己評価に係る教職員アンケート関連項目最も肯定的な評価50%以上(43.4%) 保護者アンケート50%以上(55.7%)	B	・学校運営協議会の充実と学校の教育活動等の更なる情報発信 →発信方法の検討。 →連携先や連携方法の検討。	・学校間での交流及び共同学習はとても良かった。次年度以降も実施していきたい。 ・特別支援学校のセンター的機能の一つである地域の小中学校への支援において、研修会の講師派遣など継続してお願いしたい。 ・さくら草特別支援学校においては、福祉との連携がよくとれていると感じる。
4	<現状> ・校内研修、市や県の研究会等に参加し、授業改善等に生かせるよう努めている。 ・自らのキャリアを振り返ることで、研修意欲が高まり、専門性向上につながっている者もいる。 <課題> ・特別支援教育、肢体不自由教育に関する知識、経験、児童生徒の実態の多様化などに伴い、教職員の更なる専門性の向上が必要不可欠である。	・教職員の専門性向上	①職員の当初面談時等において、キャリア振り返りシートを用いて教職員一人ひとりが把握した自らのキャリアを踏まえ受講奨励を行う。 ②(肢体不自由教育を含む)特別支援教育全般、特別支援学校のセンター的機能等に係る校内研修等を計画的に実施する。	①教職員一人ひとりが、自らを振り返り課題意識をもって研修に取り組むことができたか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて関連項目肯定的評価95%以上となったか。	・学校自己評価に係る教員アンケート関連項目肯定的評価90%以上(96.5%) ・自らのキャリアを振り返り、校内研修、市や県の研究会等に参加し、専門性の向上、授業改善等に生かせるよう努めている。 ・校内のセンター的機能に関する校内研修を実施し、専門性の向上に努めた。	A	・肢体不自由教育に関する専門性の更なる向上 →実践を通じた学び合い。 →他校との学び合い。 →外部指導者の活用。 →年間を見通しをもった校内研修計画の立案と実施。	・他校から学ぶ機会や教員同士が交流できる場を設定するなどして、更なる教員としての資質向上を目指していけるとよい。